

# 第18回岩手県東日本大震災津波復興委員会

## 「被災地釜石からみた復興状況と課題」

平成28年7月22日

釜石市

# 被災世帯に対する意向調査

□被災世帯

約4,000世帯

調査日	H26.10.31	H27.3.31	H28.3.31
自立再建	約1,850世帯	約1,800世帯	約1,850世帯
復興住宅	約1,100世帯	約1,100世帯	約1,050世帯
補修・賃借等	約 700世帯	約 900世帯	約1,050世帯
未定	約 350世帯	約 200世帯	約 50世帯

【課題】再建の意向がはっきりしない人への対応

# 仮設住宅入居者の推移

□被災世帯

約4,000世帯

調査日	H26.3.31	H27.3.31	H28.3.31
仮設住宅入居者	2,370世帯	2,092世帯	1,760世帯
みなし仮設入居者(市内)	272世帯	214世帯	189世帯
みなし仮設入居者(市外)	117世帯	99世帯	85世帯
市外転出者	352世帯	393世帯	394世帯
その他 (死亡、施設入居、親族との同居)	30世帯	49世帯	73世帯

【課題】仮設住宅の集約化にともない最後まで残った世帯への対応

# 事業者数の推移

〔平成21年経済センサス浸水範囲概況〕

□震災前の事業者数 2,396

□被災した事業者数 1,382（全体の57.7%）

上記のうち半壊以上の約1,000事業者を調査

調査年月	H25.4	H27.6	H28.6
再 建	406事業者	480事業者	524事業者
廃 業	94事業者	187事業者	306事業者
不 明	287事業者	171事業者	0事業者
仮設店舗営業中	214事業者	171事業者	171事業者

参考)

年度	平成25年度 (1次～9次)	平成26年度 (1次～12次)	平成27年度 (1次～15次)
グループ補助金 累計交付決定数 ※( )内は完工分	31グループ	32グループ	34グループ
	239事業者	240事業者	243事業者 (181事業者)

※平成26年経済センサス (H26.7) 1,898事業者 21%減

【課題】仮設商店街に最後まで残った商業者への対応

# 被災者への寄り添い

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
仮設住宅	<p>◎アットマーククリアスが生活再建移行期被災者支援連絡員配置 36名</p> <p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p>	<p>◎アットマーククリアスが生活再建移行期被災者支援連絡員配置 32名</p> <p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p>	<p>◎アットマーククリアスが生活再建移行期被災者支援連絡員配置 33名</p> <p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p>
みなし仮設	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協生活支援相談員による訪問見守り活動 22名</p>	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協生活支援相談員による訪問見守り活動 23名</p>	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協生活支援相談員による訪問見守り活動 27名</p>
復興住宅	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協ライフサポートアドバイザーによる訪問見守り 3名</p>	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協生活支援相談員と応援センター保健師が共同で訪問調査し訪問頻度を決めて定期的に訪問活動を実施 23名</p>	<p>◎見守りスタッフによる見守り活動 各地区生活応援センターに 1名ずつ配置 計8名</p> <p>◎社協生活支援相談員と応援センター保健師が共同で訪問調査し訪問頻度を決めて定期的に訪問活動を実施 27名</p>

【課題】一人一人の家庭の実情に沿ったきめ細やかな対応

## ◆区画整理事業の整備状況 ※4地区（107.5ha）

- H28年度末引き渡し予定区画数  
440区画（全体の40%）
- H29年度末全区画引き渡し予定
- H30年度事業完了予定



〈鶉住居地区〉

【課題】再建者数がはっきりしていない

# 鵜住居地区の整備

スポーツ・レクリエーション施設  
RWC大会会場

津波の避難拠点となる  
小学校・中学校

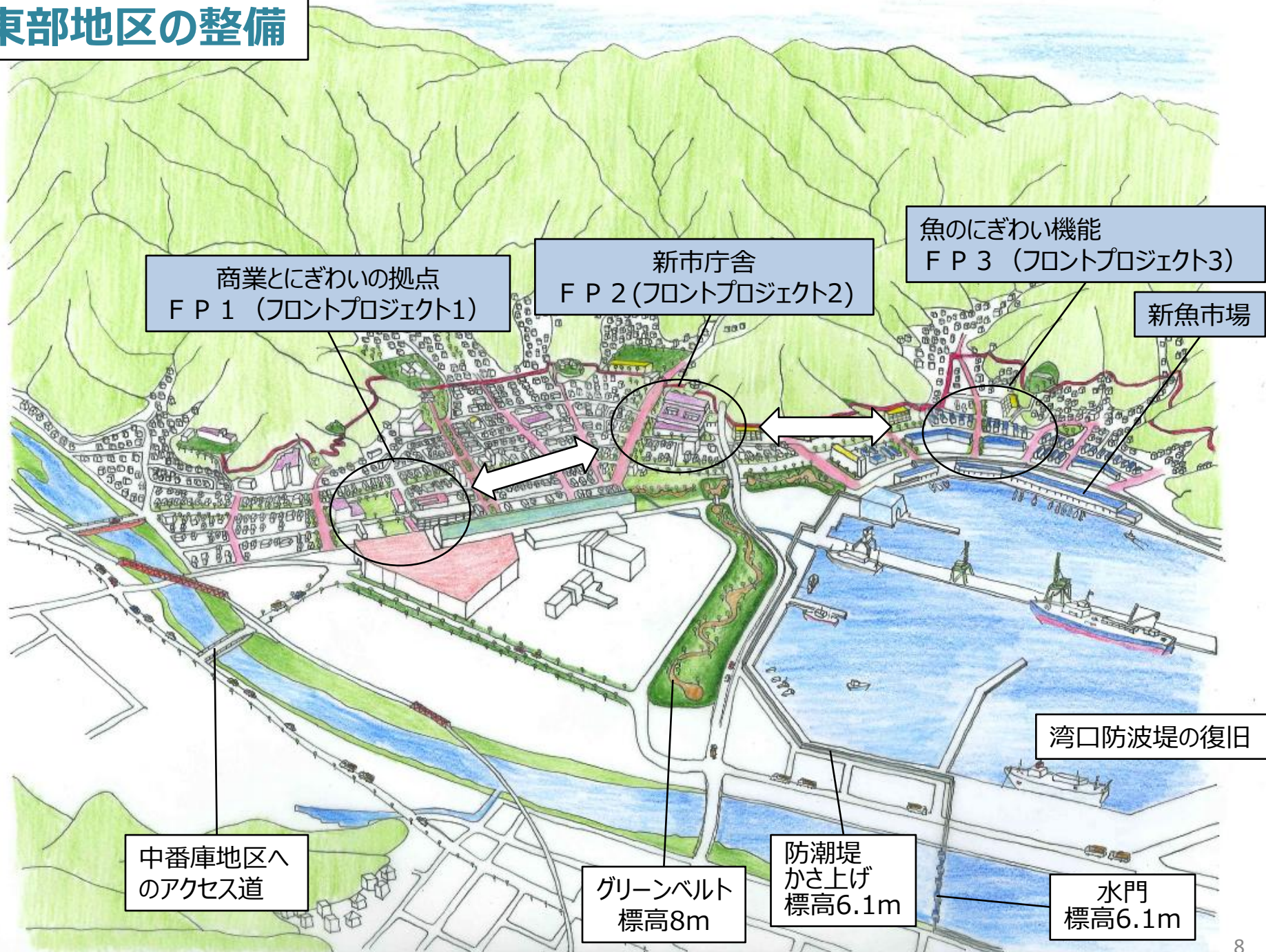
駅前・国道沿道は  
公共施設・商業・事業所エリア

JR山田線  
鉄路復旧を目指す

防潮堤  
14.5m

鵜住居川河口に水門とセットで防潮堤を設置  
整備高さT.P.(標高)14.5m  
※現況防潮堤高さ標高6.4m  
(約8.1mかさ上げ)

# 東部地区の整備





# ◆漁業集落部の整備状況 ※13地区 219区画

- H28年度末引き渡し予定区画数  
149区画（全体の68%）
- H29年度末引き渡し予定区画数  
219区画（全体の100%）



〈室浜地区〉

【課題】被災地区における歴史・文化の継承

# ◆復興公営住宅の整備状況

※整備地区/全体整備予定数（県施工住宅を含む）22地区/1,314戸

- H28年度末引き渡し予定戸数 1,127戸（全体の86%）
- H29年度末引き渡し完了予定 1,267戸（全体の96%）
- H30年度末引き渡し完了予定 1,314戸（全体の100%）



〈上中島Ⅱ期住宅〉

【課題】新たなコミュニティづくり

# 将来の三陸の希望づくり

- 復興道路・復興支援道路の整備が着実に進行
- J R山田線の整備が進行中
- 港湾機能が拡充
  - ・宮古港フェリー航路の開設
  - ・釜石港ガントリークレーンの整備
- 三陸の基幹産業である水産業はもちろんのこと、三陸ジオパーク、ユネスコ世界遺産（橋野鉄鉱山）、ラグビーワールドカップなど、水産振興に加えて観光面でも三陸から新たな動き
- 今後は、ますます三陸の連携が重要に
  - ・岩手県沿岸市町村復興期成同盟会とは別組織を立ち上げ  
⇒三陸連携会議を8月2日にキックオフ